

トーケイ杯SG第41回 10/30 FRI 31 SAT 11/1 SUN 2 MON 3 TUE

# 日本選手権オートレース

入場無料

特別オートレースキャラクター

キヲト



天候等諸事情により、変更又は中止になる場合があります。

## ★イベント★

10/30(金) 9:55~  
**開会式**  
開会式選手  
コール



★声優 神谷明  
(キン肉マン、北斗の拳)

★神谷明vs25期生トークショー (有吉辰也選手他)

●時間/11:30~4R発売中 ●会場/東ゲート付近

お笑い爆笑ステージ ●1回目/11:58~5R発売中

●2回目/14:04~9R発売中

★磁石 ●会場/メインゲート西側ステージ

★勝利選手公開インタビュー  
(9R~12R) ●会場/東ゲート付近



10/31(土)



お笑い爆笑ステージ

★スピードワゴン

●1回目/11:58~5R発売中

●2回目/14:04~9R発売中

●会場/メインゲート西側ステージ

★オートレーサー  
なりきり写真を撮ろう

●時間/11:30~4R発売中~7R発走まで

●会場/東ゲート付近

★勝利選手公開インタビュー  
(9R~12R) ●会場/東ゲート付近

★朝練習見学会&撮影会 ●実施日11月1日 8:20~9:30



11/1(日) お笑い爆笑ステージ

★ザ・たち

●1回目/11:58~5R発売中

●2回目/14:04~9R発売中

●会場/メインゲート西側ステージ

10/30(金) ★ファンサービス 10/31(土)

ご入場の先着3,000名様のうちラッキーカード  
により300名様にクオカードを進呈!!

ご入場の先着3,000名様のうちスピードくじ  
により500名様にオリジナルタオルを進呈!!

11/2(月) 11/3(火)

ご入場の先着3,000名様のうち  
ラッキーカードにより300名様に  
クオカードを進呈!!

ご入場の先着1,000名様に  
ソフトドリンクを進呈!!

ご入場の先着2,000名様のうち  
スピードくじにより100名様に  
オリジナルピンバッジを進呈!!



11/3(水) ★世界最大級のバイク  
「BOSSHOSS」で競走路体験  
イベント ●会場/メインゲート西側で先着200名限定

★優勝戦出場選手紹介 ●11R発売中

★優勝選手表彰式

★優勝戦ゴール時特別花火打ち上げ

★選手会による写真販売 ●実施時間/9:30 ●会場/メインゲート西側第4段階席北側

ウルトラマンゼロ

11/3(水) ウルトラマンゼロも登場  
ウルトラマンメビウスショー

●1回目/11:57~5R発売中

●2回目/14:00~9R発売中

●会場/メインゲート西側ステージ

©2006 円谷プロ・CBC

11/1(日) イメージガール  
横山かおりさん  
ご来場者お出迎え

10/30(金)~11/3(火)

各日、特別観覧席ご入場の先着200名様、  
グリーン席ご入場の先着100名様に  
専門紙を進呈!!

# JAPAN CHAMPIONSHIP AUTO RACE

SG第41回 日本選手権オートレース

10/30 FRI 31 SAT 11/1 SUN 2 MON 3 TUE



# Interview

「現役最強」じゃない。「史上最強」一。

# 高橋 貢

永井 大介 / 早川 清太郎 / 荒尾 聡

テレビ放送  
予定

《群馬テレビ》  
◆準決勝戦展望/11月1日(日)21:00~21:30  
◆準決勝戦実況中継/11月2日(月)14:30~17:00  
◆優勝戦展望/11月2日(月)22:00~22:30  
◆優勝戦実況中継/11月3日(火)15:00~17:00

《CS放送スカイパーフェクTV/216ch》  
◆実況中継/10月30日(金)~1日(日)10:00~16:50  
11月2日(月)・3日(火)10:00~17:00

《BS11》  
◆優勝戦実況中継/11月3日(火)15:30~17:00

# 高橋 貢

「現役最強」じゃない。「史上最強」一。

高橋貢をそう評して異議を唱える者は、もはや完全なマイノリティーだろう。ファンだけではない。日々、共にバトルするライバルたちが、そのことを一番思い知っている。



淡路 哲雄・スポーツ報知=文

▼貢のテクニックは凄すぎる。何度も一緒に走ったが、危険な思いをしたことなんて一度もないさ。(川口・篠崎実)

▼貢さんの牙城を崩せるかって?みんな、何もわかつちやない。今でも貢さんがダントツの王者だよ。レーサーとしても、そして人間としてもね。(船橋・永井大介)

▼一番スピードのある選手?一番強い選手?そんな質問してどうするの。貢さんとか答えられないよ。(船橋・牧野賢博)

来る日も、来る日も、勝ちまくった。あらゆる記録を塗り替えた。ずっとトップの座を守り続けた。

しかし、ここで、命題が生まれた。「あとは何をやり遂げればいいのか?」「絶対王者と呼ばれる男だけが直面する、ディープで悩ましい葛藤である。

高橋が、心境を吐露する。「ずっと、モチベーションをキープし続けることは、正直言って難しい。『頂点に立つ』ためには、ガムシャラにやらないと達成できない。でも、『頂点を守り続ける』ためには、ガムシャラだけではだめなんです」。

高橋は、さらに続ける。「誤解を恐れずに言うならば、どこで力をピークに持っていか。そこがポイントでしょうね。ひとつの開催中でもそうだし、年間を通してそう。トータル的に考えて、どうやって力を分配すれば、最終的に、最も望ましい結果を得ることができるか。それはいつも念頭にあります」。

「マラソンだって、そうじゃないですか。ゴールがあるから走り切れる。でも、ゴールがどこなのかわからなかったら、ずっと走り続けることは難しいですよ」。

「レーサー高橋貢」としてのゴール、終着点は、一体どこなのだろう。「整備にしてもね、まだまだなんです。もっと、もっとたくさん走って、とにかくデータを集めたい。整備を極めるためにはね、そうですね、あと50年はかかるでしょう。いや、本当に」。

ファンや選手たちが、「貢がNO1」といくら叫んでも、本人が目指す、見据えるその先は、まだまだずっと高みに設定されている。絶対王者たるゆえんは、そこにある。

同じ伊勢崎にロッカーを構える柳泰樹が、こんなエピソードを紹介してくれた。

「いつだって一番最後に、検査場へ到着するマシンは、決まって『Fニューナ』なんです。一番強い人が、一番遅くまで整備に向き合っている。そりゃ、強いわけだよ」。

「オートが好きなんだろうね、きっと」高橋は、笑う。「だから頑張れるんだと思う。自分は楽しんでやっている。本当に、ただそれだけ。自分が楽しまなければ、周りの方も、ファンもきっと楽しんではいけませんよ」。

スピードよりも、テクニックよりも、整備力よりも、レーサー高橋貢が所有する最強の切り札。それは、「飽くなき向上心」。そして、「オート愛」なのかも知れない。

新興勢力の台頭にも、ワクワク感を隠そうとしない。

「最近では29期生を中心に、若くてイキのいい選手がたくさん登場してきた。すごくいいことだと思う。でも、ジュニア選手権(若手中心のGII戦)に出ている選手ばかりにやられているわけにはいかない。ベテラン勢も頑張らなくて、あらゆる世代で競い合えば、もっとオートは楽しい競技になる。自分は、もう名匠戦(ベテラン中心のGII戦)に出る年だから、オールチームの一員だけだね(笑)」

日本選手権は、97、98、00年、そして04年。これまでに4度タイトルを手に入れている。

最も印象に残った一戦は、97年だという。地元・伊勢崎ファンの前での初戴冠だった。「もう12年も前になるんですね。スタートする前の緊迫感、ゴールした後の大歓声。『自分はすごいところにいるんだな』とすごく感動したのを、今でもはっきりと覚えています。あの当時は、島田さん(故人)や、飯塚さんに岩田さん。そして片平さん。船橋勢がすごく強くて、どう立ち向かったら負かすことができるのか。真剣に考えました」。

出場するほぼすべてのレースで圧倒的な人気に推される高橋だが、地元・伊勢崎では、特に高橋絡みの車券に支持が集中する。俗にいう「ミツグ・オッズ」というやつだ。

## MITSUGU TAKAHASHI

「ファンが自分を信頼してくれて、たくさん車券を購入してくれる。すごくありがたいことだと思う。ファンこそが、オート界にとって一番の『スポンサー』なんですからね。だから、いつも期待に応えたい気持ちで一杯なんです。なかなかね……」

3年前の5月。伊勢崎の一般戦で、3連単配当1,500万円を超す史上最高配当が飛び出した。「原因は自分です(苦笑)。自分が結果を出せないと、こんな大きな配当になってしまう。逆を言えば、それだけ多くの方が自分に投票してくれていたわけですからね。ある意味、すごく光栄だと思いました。だからこそ、次回以降のレースで信頼に応えなくては、より気合が入ったものです」。

この秋、伊勢崎は、路面の改修工事が施された。「新走路は、とにかく難しい。特に雨が降ったりすると、油が浮いてすごく走りにくい」。

しかし、そこは王者。対策はしっかりと練っている。「自分がデビューしてから、伊勢崎走路はこれまで何度か改修されている。そのデータを自分は持っている。自分としては、その点で他の選手よりは有利だと思っています」。

今シリーズは、ほとんどの選手が、予行演習なしのぶっつけ本番で、新走路に立ち向かう。不確定要素は多いが、しかし、過酷な条件すら、自分のプラス材料へと運用してしまう。そこもまた、絶対王者の懐深さなのである。

高橋のマシンには、こんなフレーズが刻まれている。「Eat Sleep Ride」。「ぐっすり休んで、たくさん食べて、いい仕事をしようじゃないか」。泰然自若、あるがまま、なすがまま。シンプルに、自分のやるべきこと、



伊勢崎

22期

出場 14回目

すべきことを淡々とこなしていく。その積み重ねが、王者の盤石な土台を築いているのだ。

まさに、冒頭で高橋が述べた「ただガムシャラなだけではだめなんだ」を、これほど端的に表現するフレーズは、他に探すことはできないだろう。

普段の高橋は、多くを語りとするタイプの選手ではない。「関係者やマスコミの方にとっては、やりにくい人間だと思いますよ。申し訳なさそうに苦笑いを浮かべるが、王者の一言は、やはり他の選手とは重みが違う。何気ない些細なコメントが、時に大きな波紋を投げかけてしまうことを、しっかりと承知しているからこそ、つい発言に慎重になってしまう。ただ、それだけなのだ」。

その証拠に、仕事を終えたロッカー内では、高橋を中心に若手の輪で出来上がり、歓談にふけるシーンを何度となく見かける。「東小野くんとかね、すごいと思いますよ。いつも、周りとかファンに楽しんでもらおうと心がけているじゃないですか」。

自分は、そのキャラにあらず。しかし、ファンを敬遠しているわけではない。その逆だ。チャンスがあれば、ファンを楽しませたい。楽しんでもらいたい。その気持ちは、常に抱き続けている。

8月のGIムーンライトCC。「この夏に、はまっているものは?」とテレビインタビューで問われると、「ハイボール(安くて早く酔えるお酒)」と即答してみせた。オート界全体でも、今年一番の「コメント大賞」だった。

夏はもうとっくに終わってしまったが、通算5度目の日本選手権Vを達成したら、キンキンに冷えて、少し濃い目のハイボールで祝杯です。

# 永井 大介

どうしても勝たなければならないレースがある。絶対に獲りたいタイトルがある。永井大介が最も欲している勳章。それは「日本選手権」である。

1997年4月にデビューして以来、爆発的なスピードと、圧倒的なスケールでライバルたちを寄せ付けなかった。白星を積み重ねていった。しかし、なぜか、大レースからは見放され続けた。

“未完の利器”と将来を期望された男は、いつしか、“無冠の帝王”と呼ばれるようになった。ある時は、自分の持つ以上の“120%”の力で走って、闘志は激しく空回りした。またある時は、肩の力を抜いて、“80%”の力で大舞台に挑んだ。しかし、周囲には「勝利に対するどん欲さが足りない」と映った。結果が出ずに、悩み抜いた。全力で向き合った試行錯誤は、なかなか成果を生んでくれなかった。

転機は、昨年9月のオートレースGPに訪れた。力むことなく、しかし、リラックスし過ぎることなく、“100%”の力をスムーズに、余すところなく、ライバルたちに叩きつけた。スタートから強豪レーサーたちを突き放していった。念願のSGタイトルを獲得した。

真っ先に報告したい人間がいた。25期の養成所長加藤氏だ。「レーサー永井大介」の礎を作った恩師は、今は勇退されて、沖縄の地で自適に余生を過ごされている。「所長、ついに勝ちました」。

しかし、師匠から、お褒めの言葉は返ってこなかった。「グランプリで満足してはいけないよ、ディスク。選手権を勝ったら認めるよ」。



船橋  
25期

出場 10回目

## DAISUKE NAGAI

「なんというか、出来過ぎですね。運もあると思うし、とにかく流れがいいんですよ」そう永井は語るが、「昨年よりは、今年の方が乗り方も、整備もすべての面でうまくいった気がする」。運や、流れだけではなく、確実にステップアップしている自分に、確かな手応えを感じているのも、また事実だ。

「チャンスがあるなら、グランドスラムは達成したい。でも、記録のために走っているわけではないし」。あくまで平常心を強調するが、「加藤さんのためにも、どうしても選手権を勝ちたい」恩師に最高のプレゼントをデリバリーしたい。そんな強い願望を胸中に秘めていることも、否定することはなかった。

“オート界のプリンス”も、32歳になった。30期生の中には、「永井さんに憧れています」「永井さんのようなレーサーになりたい」そう思いを馳せるルーキーは少なくない。

「そう言ってもらえるのは、素直にうれしい。でも、自分はまだまだ。レーサーとしての技術もそうだけれど、貢さん(高橋)は、人間性にも本当に素晴らしいんだ」。

この取材は、整備、練習の合間を縫って行われた。「この記事と写真はファンが見てくれるものだから。整備用のTシャツ姿では失礼だよ」と、多忙な時間にもかかわらず、きっちりと私服に着替えて、さらに自前の時計、リングまで装着して、写真撮影に当たってくれた(足元には、アンケート!そこまで写らないつうの・笑)。

そういえば、前記の30期生は、こうも言っていた。「自分もあんな大きい人間になりたいです」。永井本人が自覚している以上に、周囲や関係者、ファンたちは、選手として、そして人間としても、永井大介を真のチャンピオンとして認め始めているようだ。

伊勢崎オートに、待望のネクスト・ジェネレーションが誕生しようとしている。早川清太郎。長らく続いた高橋貢による圧倒的なシェア独占を、今まさに、ニューヒーローが強烈にストップをかけようとしている。

そのことを最も強く肌で感じているのは、誰であろう。絶対王者本人なのかも知れない。ある、関係者との打ち合わせの席。高橋に、こんな要請が届いた。「(今年の日本選手権の)選手宣誓、地元の大エースである貢さんに、ぜひお願いしたいんですよ」。

そのオファーに、キングはこう返答した。「大変にありがたいです。自分がやるのは、全然構わない。でも、今回は清太郎に任せてみてはどうでしょう。本人にしっかりと自覚を持たせるという意味で、自分からも是非、お願いしたい」。

デジャヴ。歴史は繰り返す。若き頃の高橋貢が似た経験をした。今から10年以上も昔、大ブレークを果たす前。黎明期のレーサー高橋は、当時、世代を風靡し、最強だった田代祐一から、「これからのオート界は、貢を中心に回る。今後は、おまえが全面に出てプロモートしろ」と諭された。

その言葉を重く受けた高橋は、以後、積極的にマスコミに、広告に、行事に露出していき、と同時に成績を急上昇させて、NO1レーサーの座に就任していったのだ。

高橋に、負けるつもりは、微塵もない。しかし、王者は業界発展のことを同時並行して、苦慮している。「いつまでも、自分だけが市場独占していいものだろうか」と。

そんなタイミングに、早川の登場だった。09年後期ランクはS級15位。貢に続く「伊勢崎NO2」と評しても、もはや異論は聞かえてこない。課題だったスタートを少しずつ改良していき、持ち前のスピード、積極的なレース運びを熟成していった。

## SEITARO HAYAKAWA



伊勢崎  
29期

出場 3回目

8月の地元開催だった。優勝戦。前人未踏の通算150Vを目前して、先頭をひた走る高橋を、早川は差し返した。大記録達成を、こん身のパフォーマンスで、若武者が懸命に阻んだ。

「あの時は、貢さんが滑ってしまったから、抜けただけです。でも、確かに、大きな自信になったことも事実です」。力強い視線をこちらに向け、そう言い放った。

「貢さんが、清太郎くんに宣誓の役割を譲りたいと言っていましたよ」そう伝えると、「正直、自分でいいのかな、という気持ちはあります。でも、その期待になんとか応えたいです」。

謙虚に、大役任命を受け止めたが、こうも続けた。「貢さんを始め、先輩レーサーたちが弱くなってからの世代交代ではダメだと思っています。みなさんが強いうちに、なんとかやつつきたい。そういう気持ちは、常に持っています」。

ある日、永井大介はこう語った。「切磋できない期は、絶対に強くない。25期は、その点で最強だと自負している」。29期は、人材の宝庫である。金子大輔、平田雅崇、岩科鮮太、岩見貴史、佐藤貴也、青木治親、そして早川。次世代のスーパースター候補、ネクストSGウイナーが、ひしめき合い、世に打って出るチャンスを、本格ブレークの時を誰々と伺っている。

早川は言う。「同期とは、すごく仲がいいです。誰かが勝てば、自分のことのようにうれしい。でも、一番負けたくないのも、また同期のレーサーたちなんです」。

29期の猛烈な台頭は、永井が指摘するところの「同期との結託」がしっかりと存在する証拠なのかも知れない。その輪の中心に、堂々と早川が位置する。

# 早川 清太郎



# 荒尾聡

## SATOSHI ARAO

荒尾聡は、常に、“より高み”を目指さなければ気が済まない人間のような。どこまでも高く、広く、よりベストを、理想を追いかけ続ける。荒尾が、はにかみながら語る。「性格なんだと思います。とにかく、負けず嫌いなんです。子どもの頃から、ずっとそう。そして、かなりワガママ(笑)」。

だから、整備にも徹底的に時間を費やす。レースが終わり、夕方練習が終わり、記者たちの取材が終わり、整備室はだんだんと静寂を取り戻していく。時間が経つごとに、選手がひとり、またひとりとロッカーを去っていく。しかし、荒尾はマシンの前から、微動だに離れようとしない。大粒の汗をしたたせながら、誰よりも遅くまでエンジンと格闘する姿を、これまで幾度となく目撃した。

人は、荒尾を「勝負強い男」「土壇場で力を発揮するレーサー」だと言う。でも、それは違う。運があるから、ここの一番でエンジンが仕上がるわけじゃない。「何かを持っている」から、大舞台で存分に力を発揮できるわけじゃない。すべては、日々の精進。あくなきオートレースへの情熱こそが、ここの一番での勝負強さをたくり寄せているのだ。

「ボクは、“勝ちたい”に努力しているわけではない。“勝つため”だけに尽力しているんです。勝てたら、うれしいなあ。そんな中途な姿勢は、荒尾の生き様と反する。絶対に勝利する。必ず1着ゴールを果たしてみせる。その強い気持ちこそが、レーサー・荒尾聡のすべてを支えていると言っても過言ではない。

荒尾が、うれしそうに話す。ある雑誌の記事だった。「有吉(辰也)は天才型。荒尾は努力型。負けん気だけで生きている感じだね」。地元の名門レーサー・田中守のコメントだった。「もう、涙がこぼれてしまうくらい、うれしかった。ちゃんと見ていてくれるんですね」「本当は、褒めてもらうのが大好き(笑)。東小野(正道)さんと、ボクは褒められて伸びていくタイプの人間なんです(笑)」。

端から見るほど、荒尾は、とがっているわけではない。確かに、誤解されることは少なくない。でも、本当の荒尾は、オートレースが大好きで、ファンのことを愛して、真剣に考えている。ハートの温かい28歳の青年



飯塚  
27期

出場 7回目

なのだ。「ご覧の通り、顔つきが怖い(笑)。しかも、人とコミュニケーションを取るのが苦手なんです」。

それでも、ファンと接したかった。だから、ブログを始めた。「ブログを通して、ファンの方に、少しでも自分のこと、オートのことを知ってもらえたらな、と」。

だが、再びレースの話題を向けると、負けん気溢れる、クフなレーサー・荒尾の鋭い眼光に、すぐさま戻る。そのギャップが、また魅力とっていいだろう。「とにかく、スピードが欲しいです」と現況の不満を述べ始めたのは、驚いた。荒尾といえば、現役有数の快速レーサーだ。ファンはもちろん、共に闘争を争うライバルたちも、荒尾のスピードには、一目も二目も置いているというのに…

「自分のスピードなんて、全然ですよ。これは、謙遜じゃないです。ボクが独走できるのは、エンジンが仕上がっている時だけ。例えば、永井(大介)さん。ちょっと機力が足りない時でも、先頭に立ってしまえば、どんどん後続を離していくでしょ。あれが、本当にスピードがあるっていう証拠なんです」

荒尾の欲求は、際限がない。しかし、不思議なことに物欲はまるで持っていないように感じる。「賞金は、整備代でかなり消えてしまいます」。

あらゆる目標に、自ら高いハードルを設定して、もがきながら、苦しみながら、懸命に道程を突き進む。少しは気楽に、もっとリラックスすればいいのに…

周囲にそう思う人間は少なくないが、それでも荒尾は歩を休めない。

ひとつ、ひとつ、ハードルをクリアしていった先に、ファンが期待する、そして荒尾本人が追い求める“荒尾聡像”がきっとあるはずだから…



### PROFILE

飯塚 26期



田中 茂  
SHIGERU TANAKA  
8回目



ミラクルダッシュをぶっかまして、問答無用に後続を大きく引き離していく。最近のSGは、このパターンで決着するケースが多い。時代に逆行して、後方から一車ずつ丁寧にさばく、古き良き時代のトラッド・スタイルで、SGを勝てる男がいるとすれば、それは田中茂だろう。「後ろから追いかけってくるエンジンが聞こえる。だいたい茂なんだよね」ある快速系選手がおびえるように語った。シゲルに睨まれた先行車は、おとなしく餌食になるのを待つしかない運命にあるのだ。

飯塚 25期



有吉 辰也  
TATSUYA ARIYOSHI  
10回目



絶妙なニックネームは、ファンの興味、関心をより高める。“カミノリ・スタート”。あまりに浸透し過ぎたフレーズだが、実は命名者は、有吉辰也、ご本人だった。発案は、2、3年前。当時は、そんなにスタートが速かったわけではなく、誰も使ってくれなかった(笑)。そして、お馴染みとなった珍パフォーマンス。次なる仕掛け、かぶり物はなんだ!? 走りどきで業界を盛り上げる有吉に、関係者一同は感謝しなくてはいいけない。

船橋 23期



池田 政和  
MASAKAZU IKEDA  
14回目



池田政和は、ただ速いだけではない。ただ強いだけではない。池田の走りには、ロマンがある。どこか、刹那的すらある。勝っても、負けても、スタンドから大きな声援と叱咤が飛び交う。池田が弱いと、ファンは燃えない。ファンのハートを激しくシェイクする池田は、業界にとって、大切なコンテンツである。池田は、大舞台に強い。03年以降の選手権制覇へ。“イケダ王朝”の復興なるか。今シリーズの大きな注目どころである。

船橋 28期



中村 雅人  
MASATO NAKAMURA  
4回目



スピードや独走パワーはあっても、テクニックや整備力に欠如してしまう…それが典型的なヤング系レーサーのモデルだろう。28期・中村雅人。彼はそのパターンに属さない。したたかに後方から追い上げるテクを備え、エンジンに触れば、職人クラスの技能を発揮する。さらに、若手らしく潤沢なスピードにも恵まれている。「ネクストSG勝者は?」。圧倒的に中村を推す声が高い。どのツールにも全く欠点がない。モンゾンが戴冠する日は、我々が想像以上に近いようだ。



飯塚 25期

東小野 正道

MASAMICHI HIGASHIONO

10回目



オート界のエンターテイナー。時に、有り余る闘志が空転することもあがるが、東小野正道の痛快なパフォーマンスを支持するファンは、実に多い。狭いインを強行突破するのも、すべては1着ゴールのため。クレイジーな走りをしていない東小野は、東小野にあらず。勝つチャンスがわずかでもあれば、絶対に見逃さない。周囲に「その走りはムチャだ!」と咎められても、勝利目指して、ひたすら突っ走る。それが彼にとって、唯一の正しい道なのだ。



川口 25期

森 且行

KATSUYUKI MORI

10回目



9月に川口で行われたオートレースGPの開催中に、チャリティー会が開催された。地元の総大将・森且行は、整備に忙殺される中、自ら先頭に立って、ファンに接し、サインペンを走らせ、写真撮影に取まった。森が姿を現すと、森が活躍すると、この業界は猛烈に盛り上がる。様々な重責を担いながらのプレー。大変な心労だろうが、SG初戴冠が達成されたら...業界どころか、日本中が、すごい騒ぎになるだろう。



飯塚 23期

浦田 信輔

SHINSUKE URATA

14回目



浦田信輔を長きに渡って、トップの座に君臨させる重要なファクター。それは、整備力だ。ライバルたちに「最も整備力にたけた選手は?」と質問すると、異音同義にこんな答えが返ってくる。「浦田さん」。エンジンをいじらせたなら、業界トップ。抜群の安定感、的確な整備技術に支えられているのだ。もちろん、エンジニアとしてだけ優れているわけではない。狭いインをきれいにえぐるさばきは、寿司職人の包丁芸を見ているようである。



船橋 19期

片平 巧

TAKUMI KATAHIRA

21回目



オーラ。誰もが簡単に発せられるものではない。カリスマ。誰もが手軽に備えられるものではない。どちらも、タイトな修羅場を何度もくり抜けてきた者だけが、所有できる格別なアイテムだ。オート界で、強烈なオーラをまき散らし、カリスマを感じさせる男。片平巧しかいない。アーティスト的な域まで達したハンドワークを武器に、再び、SGタイトルを獲得する時は、やって来るのだろうか。いや、絶対にやって来て欲しい。



山陽 19期

岡部 聡

SATOSHI OKABE

22回目



「雨の岡部」と評される。冗談じゃない。岡部聡は、良走路でもキングだ。あるベテラン選手が仰る。「エンジンが多少見劣っていたとしても、ハンドワークでねじ伏せてくる。それが岡部という選手だ。」「フラッグシップ」とは、IT業界で「そのモデル、シリーズの最高峰、最高級」を意味する。業界広しといえど、テクニック部門の最高峰に真っ先に名前が挙がるのが岡部である。痛快な「暗黒雨読走法」で、今シリーズを盛り立てる。



飯塚 26期

篠原 睦

ATSUSHI SHINOHARA

8回目



0メートルオープン戦は、枠順が勝利の行方を大きく左右する。ある者は「大外は不利だ」と嘆き、またある者は「インは包まれて嫌いだ」と弱気を見せる。しかし、スタートに絶対の自信を持つ篠原睦は、「苦手な枠?そんなのない、ない。全然ない。どこでもOK」と豪快に言い放つ。飛び出しの迫力は、あの有吉に及べきする。今日もあっくんは、泰然自若に0メートルラインにそびえ立つ。もちろん、トップスタートを切るつもりマンマンで。



浜松 26期

木村 武之

TAKESHI KIMURA

9回目



ついに、木村武之が勲章を手に入れた。9月のオートレースGP。秘めたるポテンシャルを余すところなく、すべてをライバルたちに叩きつけた。有吉を、高橋賢を、浦田を、撃破した。養成所時代に指導した森田晃弘教官に、「レーサーとして理想的なテクニック、資質を備えた男」と言わしめる逸材は、一つのタイトルではお腹いっぱいにはならない。「ザ・クロムショー」は、今まさに開演したばかりだ。



浜松 24期

伊藤 信夫

NOBUO ITO

12回目



伊藤信夫は、正真正銘の大スターである。しかし、ロッカーで、彼がふんぞり返っている姿は、一度たりとも見たことがない。記者が質問すれば、背筋を伸ばし、相手の目を見つめ、懇切丁寧に受け答えをする。伊藤を取材したくないと言う記者がいる。あまりに真摯に受け答えをしてくれるので、行数やスペースを超えて、大きく扱いたくなるからだ。ファンだけでなく、多くの関係者もジェントル・レトムの復権を心待ちにしている。



伊勢崎 23期

浅香 潤

JUN ASAKA

11回目



高橋賞に続く、「伊勢崎NO2」といえば、この男だった。浅香潤。特に0メートルオープンの飛び出しには、絶対の自信があった。ファンの広く知るところだった。ところが、最近では地元の気鋭・早川の急激な台頭に、やや劣勢に立たされている。しかし、長らく絶対王者を追いかけ続けた速力&底力は、簡単には劣化したりしない。絶対王者に続く伊勢崎のエースとして、地元で格好悪い姿は、絶対に見せられない。見せるつもりもない。



浜松 29期

金子 大輔

DAISUKE KANEKO

4回目



S級レーサー、多数。29期は、「ヴィンテージ世代」と称されている。中でも、最も早く全国に名前を売り出したのが、金子大輔である。デビューした当初から、成熟した大人びたレースぶりには、多くのファンから感嘆の声が集まった。その後、同期レーサーたちの成長も目覚ましいが、それでも「29期NO1」といえば、やっぱり金子だ。先輩だっ て容赦しない。立ちはだかる敵に、イストックは遠慮なく吠えまくる!



飯塚 29期

平田 雅崇

MASATAKA HIRATA

3回目



平田雅崇は、「クレイジーD系譜」に属するレーサーだろう。そこ のけ、そこけ、どんどん攻め込む。同じ飯塚の先輩・東小野と共通し た痛快パフォーマンスで、ファンの心をつらりと掴んで離さない。最 近の若者ワードで表現すれば、「バキバキ走法」とでも表現しようか。 とにかく飛距離がある。一発ツボに來れば、SGでも突き抜けそう。 29期で最初にタイトルを引き寄せるレーサー。それが平田であっても 全く驚かない。



山陽 27期

前田 淳

JUN MAEDA

6回目



レイトブルーマー。大器晩成の意である。07年前期。前田淳の全 国ランキングをご存じだろうか。A級106位。つい数年前まで、主力 級より10位前のハンデ位置で走って男が、今やS級23位。トップレ ベルまで、一目散に駆け上がってきた。まだ、タイトルは持っていない。しかし、GIよりも、GIよりも先に、SGの勳章をゲットしたとしても、 もはや驚くファンは、誰もいないだろう。大器・前田、いよいよ本格営 業の時がやって来た。



山陽 24期

濱野 淳

JUN HAMANO

10回目



ようやく、強い怪物くんを再び目撃することができた。9月のオート レースGPで、そう実感したファンが少なくなかったはずだ。濱野も34 歳になった。「くん呼び」するには、あまりに失礼な年齢である。もう、「怪物くん」と呼ぶのはやめようじゃないか。これからは、「怪物ダンナ」。畏敬の念を込めて、そう呼ぼう。濱野が先行するか、否かで、レース展 開は、180度変わる。濱野を追い抜けるレーサーは、全国でも、数える ほどしか存在しないのだ。



川口 24期

佐藤 裕二

YUJI SATO

11回目



オート界の論客といえ、このお方。佐藤裕二だ。気の利いたコメン トが欲しい時。記者たちは、彼のロッカーを訪ねる。見出しになる発言 をバンバンと提供してくれるからだ。エンジンの回転と同じくらい、佐藤 の頭の回転は早い。そして、スタート。これまた、非常に速い。0メートル オープンで争われる選手権は、佐藤がより暴れることができる絶好の シチュエーションだろう。優勝インタビューは、ぜひ拝聴を。もっとオート が好きになるはずだ。



山陽 27期

角南 一如

KAZUYUKI SUNAMI

5回目



スタートは速くない。亀のようにスロー発進する時もある。しかし、 周回を重ねるごとに、角南一如は、突如ラビットに変身する。ぐんぐん 勢いよく加速して、外、外を優雅に疾走して、序盤で先を行かれたライ バルたちを、きっちりと抜き返す。控え目な人柄とは反比例して、そ のレーススタイルは、豪放そのものだ。今日も、「角南劇場」は、ファン をハラハラさせて、そして大熱狂させる。心配するな、角南ブーメラン は必ず戻ってくる!



山陽 26期

松尾 啓史

HIROFUMI MATSUO

6回目



大きなケガを乗り越えて、松尾啓史がクールに、フロントラインへ帰 還した。テクニックは極上レベル。スタートを突っ張れば、素晴らしい スピードも発揮する。SGを突き抜けるだけのパワーをその体内に埋 蔵していることは、多くの観客が認めるところである。それにしても、 弟・隆広も誕生させた松尾ブラザーズのご母堂は、実に偉大です。 "S級レーサーを育てる方法"なんて著書を発表したら、きっとベスト セラー間違いなしです。

山陽 3回目	人見 剛志 TAKESHI HITOMI	28期
		

飯塚 3回目	岩科 鮮太 SENTA IWASHINA	29期
		

川口 3回目	青木 治親 HARUCHIKA AOKI	29期
		

船橋 6回目	内山 高秀 TAKAHIDE UCHIYAMA	26期
		

山陽 14回目	佐々木 啓 KEI SASAKI	23期
		

飯塚 6回目	重富 大輔 DAISUKE SHIGETOMI	27期
		

浜松 2回目	佐藤 貴也 TAKAYA SATO	29期
		

川口 4回目	山田 達也 TATSUYA YAMADA	28期
		

船橋 6回目	早船 歩 AYUMU HAYAFUNE	27期
		

川口 11回目	中野 憲人 NORIHITO NAKANO	24期
		

飯塚 9回目	久門 徹 TORU HISAKADO	26期
		

飯塚 11回目	竹谷 隆 TAKASHI TAKETANI	23期
		

川口 11回目	若井 友和 TOMOKAZU WAKAI	25期
		

飯塚 3回目	岩見 貴史 TAKASHI IWAMI	29期
		

飯塚 4回目	辻 大樹 DAIJU TSUJI	28期
		

船橋 26回目	岩田 行雄 YUKIO IWATA	15期
		

山陽	畑吉広	20期
18回目	YOSHIHIRO HATA	
		

山陽	五所淳	23期
9回目	ATSUSHI GOSHO	
		

船橋	五十嵐一夫	21期
11回目	KAZUO IGARASHI	
		

浜松	笠木美孝	22期
15回目	YOSHITAKA KASAGI	
		

浜松	遠藤誠	25期
11回目	MAKOTO ENDO	
		

飯塚	松尾隆広	28期
4回目	TAKAHIRO MATSUO	
		

浜松	青島正樹	22期
15回目	MASAKI AOSHIMA	
		

山陽	小林啓二	8期
30回目	KEIJI KOBAYASHI	
		

飯塚	別府敬剛	23期
11回目	KEIGO BEPPU	
		

川口	高橋義弘	29期
3回目	YOSHIHIRO TAKAHASHI	
		

川口	大木光	28期
4回目	HIKARU OKI	
		

山陽	藤岡一樹	29期
3回目	KAZUKI FUJIOKA	
		

川口	牛澤和彦	20期
17回目	KAZUHIKO USHIZAWA	
		

山陽	丹村飛竜	29期
初出場	HIRYU NIMURA	
		

浜松	松山茂靖	26期
7回目	SHIGEYASU MATSUYAMA	
		

川口	深谷輝	26期
7回目	HIKARU FUKAYA	
		



山陽 10回目	岩崎 亮一 RYOICHI IWASAKI	25期
		

船橋 8回目	谷津 圭治 KEIJI TANITSU	25期
		

船橋 4回目	鈴木 将光 MASAMITSU SUZUKI	27期
		

船橋 15回目	福田 裕二 YUJI FUKUDA	20期
		

伊勢崎 9回目	青木 勝美 KATSUMI AOKI	19期
		

浜松 5回目	浅田 真吾 SHINGO ASADA	27期
		

川口 33回目	阿部 光雄 MITSUO ABE	6期
		

川口 12回目	鈴木 清 KIYOSHI SUZUKI	23期
		

船橋 19回目	梅内 幹雄 MIKIO UENAI	19期
		

伊勢崎 21回目	湯浅 浩 HIROSHI YUASA	19期
		

船橋 9回目	仲口 武志 TAKESHI NAKAGUCHI	24期
		

山陽 16回目	西村 義正 YOSHIMASA NISHIMURA	17期
		

飯塚 4回目	榊崎 陽介 YOSUKE MASUZAKI	28期
		

川口 14回目	影山 伸 SHIN KAGEYAMA	22期
		

飯塚 23回目	永富 高志 TAKASHI NAGATOMI	17期
		

船橋 初出場	白次 義孝 YOSHITAKA SHIRATSUGI	23期
		

伊勢崎 18回目	伊藤 正司 SHOJI ITO	20期
		

浜松 22回目	須賀 学 MANABU SUGA	19期
		

浜松 3回目	筒井 健太 KENTA TSUTSUI	29期
		

船橋 10回目	山田 真弘 MASAHIRO YAMADA	24期
		

山陽 7回目	林 弘明 HIROAKI HAYASHI	24期
		

船橋 9回目	牧野 貴博 TAKAHIRO MAKINO	24期
		

船橋 4回目	武藤 博臣 HIROOMI MUTO	28期
		

伊勢崎 27回目	田代 祐一 YUICHI TASHIRO	15期
		

伊勢崎 7回目	岩沼 靖郎 YASUO IWANUMA	25期
		

山陽 8回目	西村 龍太郎 RYUTARO NISHIMURA	25期
		

伊勢崎 2回目	田中 賢 SATOSHI TANAKA	29期
		

船橋 5回目	黒岩 明 AKIRA KUROIWA	26期
		

伊勢崎 10回目	柿沼 進一 SHINICHI KAKINUMA	21期
		

伊勢崎 初出場	三浦 康平 KOHEI MIURA	28期
		

伊勢崎 2回目	金山 周平 SHUHEI KANAYAMA	27期
		

川口 10回目	秋田 貴弘 TAKAHIRO AKITA	23期
		

船橋 6回目	佐久間 健光 TAKEMITSU SAKUMA 26期
	

山陽 初出場	山下 知秀 TOMOHIDE YAMASHITA 28期
	

飯塚 2回目	藤川 幸宏 YUKIHIRO FUJIKAWA 29期
	

川口 6回目	山田 徹 TORU YAMADA 24期
	

船橋 3回目	森谷 隼人 HAYATO MORIYA 29期
	

飯塚 8回目	越智 尚寿 NAOHISA OCHI 25期
	

飯塚 4回目	瀧下 隼平 JUNPEI TAKISHITA 28期
	

飯塚 2回目	阿部 仁志 HITOSHI ABE 29期
	

# 横山かおり10の質問



- 1 伊勢崎オートイメージガールになって半年になりますね。  
そぞろね - あっという間ぞいっつわ
- 2 オートレースをはじめて観た時の感想は?  
近く見たときのバイクの迫りと、  
走るときのササメの角度にびっくりした!!
- 3 伊勢崎オートオススメ観戦スポットは?  
やはり近くぞ  
私だったら最前列ぞ金網越しに見たいかなあ、
- 4 伊勢崎オートオススメメニューは?  
伊勢崎名物「焼きたんじょう」!!
- 5 イメージガールとして初めてのSGを迎える心境は?  
ドキドキぞすねあ、大きいレースなんで今から楽しみぞす♡、
- 6 今回の日本選手権の注目選手は?  
伊勢崎 29期 早川清太郎 選手ぞ
- 7 予言してください!日本選手権の優勝は何号車ですか?  
4号車!!
- 8 もし日本選手権の優勝賞金2,300万円があったら何に使いますか?  
世界一周旅行!! カメラ持って♡  
あ、インズを貰いたい♡
- 9 スバリ、横山かおりにとってオートレースとは?  
新しい世界
- 10 最後にファンの方にメッセージを。  
こんにちは! 横山かおりぞす。  
まだまだ初心者ぞわたしぞすが、オートレースを楽しく観ながら  
たくさんPRしたいぞす女ぞよくお願いいぞすぞ  
ぜん伊勢崎にも遊びに来て下さいね♡♡、



# 日本選手権オートレース優勝戦成績一覧

回数	年月日	開催場	優勝者	年齢 (当時)	タイム	2着	3着	2連勝単式	3連勝単式
1	S40.3.23	川口	広瀬 登喜夫	24	3.74ダ	六反 一夫	久保 隆市	⑤-② 370円	-
2	S40.11.4	浜松	磯部 稔	31	3.88ダ	堤坂 忠司	大村 美樹雄	⑤-① 1,420円	-
3	S41.10.25	飯塚	広瀬 登喜夫	26	4.12ダ	岡部 光男	清水 洋海	③-① 550円	-
4	S43.3.31	大井	戸田 茂司	30	3.59	斎藤 謙一	広瀬 登喜夫	⑥-⑤ 800円	-
5	S45.3.24	飯塚	二田水 潤太郎	27	3.51	高松 晃	西島 員規	①-⑥ 780円	-
6	S47.3.21	山陽	福永 勝也	30	3.55	吉田 泰二	西島 員規	⑥-① 2,190円	-
7	S48.2.6	浜松	伊藤 力示	24	3.73	森田 二夫	宮本 政尚	②-③ 540円	-
8	S51.4.27	飯塚	加納 好和	27	3.95	梶崎 正	鈴木 隆司	⑥-⑤ 640円	-
9	S52.10.11	浜松	飯塚 将光	27	3.45	広瀬 登喜夫	板橋 忍	⑤-③ 2,640円	-
10	S53.10.10	船橋	飯塚 将光	28	3.50	板橋 忍	秋田 敬吾	⑤-① 810円	-
11	S55.3.24	山陽	宮地 良	29	3.51	秋田 敬吾	山本 道夫	⑥-⑤ 2,970円	-
12	S55.10.14	川口	阿部 光雄	31	3.92	二田水 潤太郎	飯塚 将光	①-⑤ 1,020円	-
13	S56.11.3	伊勢崎	且元 滋紀	33	3.49	小林 啓二	安藤 定實	④-⑥ 860円	-
14	S57.11.3	飯塚	秋田 敬吾	38	3.42	飯塚 将光	藤永 敏雄	②-③ 1,300円	-
15	S58.10.10	浜松	飯塚 将光	33	3.42	鈴木 辰己	山本 道夫	⑥-④ 840円	-
16	S59.11.5	山陽	進藤 敏彦	32	3.445	飯塚 将光	宮地 良	②-③ 1,530円	-
17	S60.11.5	伊勢崎	篠崎 実	36	3.425	鈴木 辰己	島田 信廣	④-② 2,890円	-
18	S61.10.14	船橋	飯塚 将光	36	3.418	篠崎 実	山元 正次	②-③ 840円	-
19	S62.10.7	川口	飯塚 将光	37	3.431	山元 正次	阿松 忠	⑥-③ 300円	-
20	S63.11.3	飯塚	田代 祐一	29	3.424	飯塚 将光	鈴木 辰己	⑤-① 2,050円	-
21	H1.11.6	浜松	飯塚 将光	39	3.365	片平 巧	岩田 行雄	⑤-② 1,150円	-
22	H2.11.6	山陽	片平 巧	25	3.351	田代 祐一	小林 啓二	②-⑥ 790円	-
23	H3.11.4	伊勢崎	岩田 行雄	34	3.396	飯塚 将光	鈴木 和彦	⑥-⑤ 3,600円	-
24	H4.11.5	船橋	島田 信廣	42	3.363	福田 茂	阿久津 正夫	④-③ 1,760円	-
25	H5.11.4	川口	片平 巧	28	3.384	島田 信廣	阿久津 正夫	⑤-④ 940円	-
26	H6.11.7	浜松	片平 巧	29	3.376	湯浅 浩	鈴木 辰己	④-② 1,800円	-
27	H7.11.7	飯塚	福田 茂	44	3.620	中村 政信	田代 祐一	⑤-① 810円	-
28	H8.11.6	山陽	島田 信廣	46	3.322	小林 啓二	中村 政信	④-③ 380円	-
29	H9.11.25	伊勢崎	高橋 貢	26	3.329	畑 吉広	中村 政信	⑤-⑥ 1,410円	-
30	H10.11.5	船橋	高橋 貢	27	3.343	濱野 淳	片平 巧	⑦-⑤ 1,530円	-
31	H11.11.4	川口	池田 政和	26	3.337	片平 巧	島田 信廣	⑦-④ 2,420円	-
32	H12.11.5	浜松	高橋 貢	29	3.322	島田 信廣	伊藤 信夫	③-① 680円	-
33	H13.11.7	飯塚	浦田 信輔	28	3.335	伊藤 信夫	岡部 聡	①-② 520円	-
34	H14.11.27	山陽	濱野 淳	27	3.316	池田 政和	高橋 貢	③-⑦ 1,700円	③-⑦-⑥ 3,880円
35	H15.11.26	伊勢崎	池田 政和	30	3.312	永井 大介	木村 武之	③-① 540円	-
36	H16.11.3	船橋	高橋 貢	33	3.351	池田 政和	伊藤 信夫	⑧-② 460円	⑧-②-③ 970円
37	H17.11.6	川口	岡部 聡	40	3.729	池田 政和	荒尾 聡	⑤-④ 260円	⑤-④-③ 1,870円
38	H18.11.5	浜松	田中 茂	30	3.324	伊藤 信夫	永井 大介	⑤-① 2,080円	⑤-①-② 7,950円
39	H19.11.4	飯塚	山田 真弘	35	3.320	高橋 貢	有吉 辰也	①-③ 390円	①-③-⑧ 2,950円
40	H20.11.3	山陽	田中 茂	32	3.325	荒尾 聡	高橋 貢	③-④ 1,080円	③-④-⑤ 2,190円

※1回～29回の2連勝単式は枠番単式。

